

パーソナリティーの相互作用が社会形成に及ぼす影響

安藤友紀， 長谷川雅起， 長嶋唯， 松田周也， 室田浩美(同志社大学 文化情報学部)

研究背景

先行研究

『アクセルロッドの文化変容モデル』
『アドルノのF尺度』

研究意義

群衆心理学や集団行動論的観点から、ムッソリーニのファシズムやヒトラーのナチスに代表される独裁政治社会に着目。

特にナチス・ドイツ下では国民がアドルフ・ヒトラー率いる国家社会主義ドイツ労働者党を圧倒的に支持し選挙で合法に政権を勝ち取るまでのプロセスについて、反発や暴動に発展するケースの多いデモと比較した場合、集団の性質に何か違いがあるのではないかと考えた。

以上から、独裁政治社会には権威と国民間の従属関係を仮定し、今回は特に国民間で相互に影響しあうパーソナリティーの変化をシミュレーションする次第となった。またMAS特有の集団社会中の属性変化を観察できる特長を生かし、個人間のパーソナリティー伝播により集団の性質が変わるのかどうかを明らかにしたい。

心理学・政治社会学的観点からのアプローチ
アドルノのF尺度をエージェントに当てはめる研究は他でなされていない
新規性

研究目的

集団社会に存在するエージェントのパーソナリティーが隣接する者同士影響し合うことによって、
集団の性質にも変化が現れるのかどうかを明らかにする。

分析方法

1

仮定

デモの参加者はF尺度が低いと仮定

2

観察

権威主義状況下の集団の中で、F尺度が高い人の割合や尺度の高低が異なる人同士の影響を観測する

3

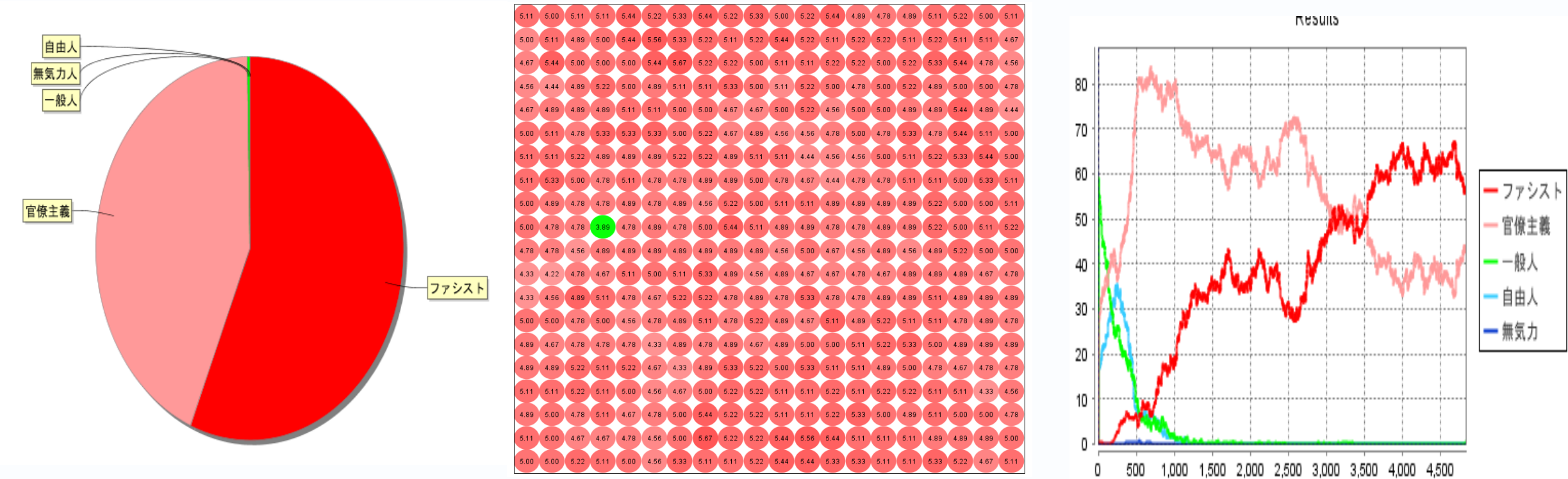
比較

F尺度の合計値から隣接する人を比較する。次に隣接する人とその人自身の値が異なる場合は確率aで値が増加し、確率bで値が減少し、それ以外の確率では変化しない。

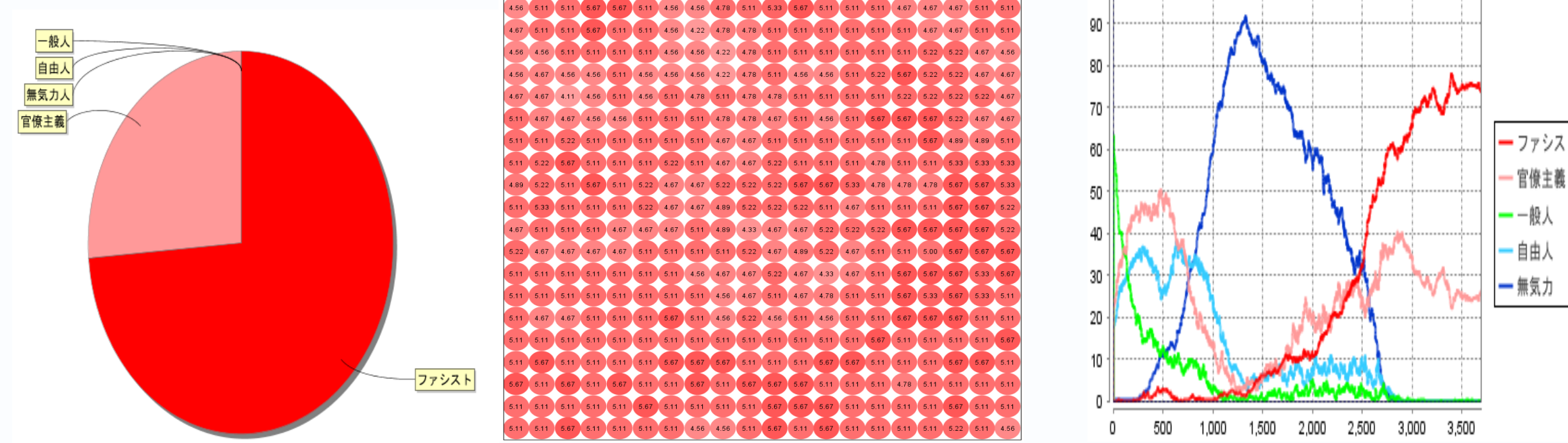
各個人にF尺度の合計の平均を得点として与え、得点をファシスト・官僚主義・一般人・自由人・無気力人の5グループに分類した

結果

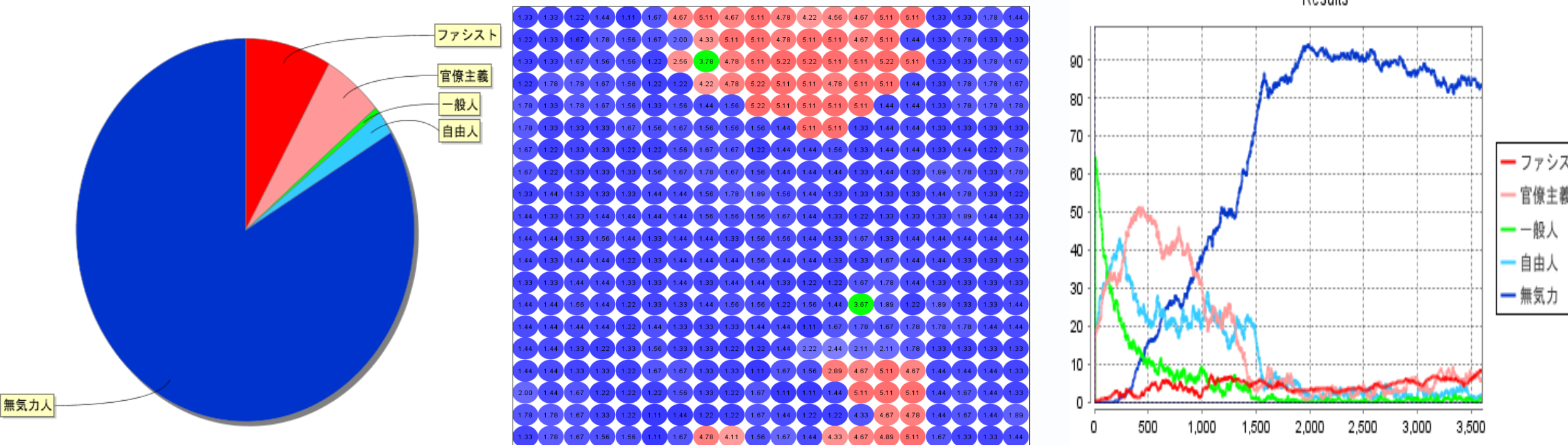
パターン①



パターン②



パターン③



考察

どのパターンにおいても、一般人が影響を与えることはないので減少していくが官僚主義・自由人の数は増加する。パターンの中での違いは最終結果であり、トップシェアがファシストか無気力であるかの2つに分類できる。ファシストがトップシェアを占めるときは、官僚主義のみと競争するが、無気力の場合は、一般人以外のグループが競争相手になる。今回のシミュレーションからファシストは増加し始めると、他からの影響を受けにくくなると考えられる。

提案

シミュレーション結果を踏まえると、ファシストが集団の性質に与える影響は大きく、また、F尺度が集団の性質と個人のパーソナリティー伝播に関連がありそうなため、F尺度という指標は社会を形成する上で考えなければならない要因であると考えられる。今回のシミュレーションでは、一般人は周りに影響を与えないという仮定で行った。現実世界では、一般人は集団の中で影響を与える存在になりうるかもしれない。

参考文献

『マルチエージェントシミュレーションによる民主主義定着過程の分析』平野, 2007